

## 〔国語〕

○ 実施時間 【8:30~9:20】(50分)

○ 次の注意をよく読んでおくこと。

- (1) 「始め」の合図があるまで問題用紙を開かないこと。
- (2) 問題は  ~ 、23 ページまであります。
- (3) 答えはすべて解答用紙の解答らんにはっきりと、ていねいに書きなさい。
- (4) 答えを直すときは、きれいに消してから書きなさい。
- (5) 内容に関する質問は受け付けません。
- (6) 気分が悪くなったり、トイレに行きたくなったりしたら、手をあげて監督<sup>かんとく</sup>の先生に合図しなさい。
- (7) 「終わり」の合図があったら、直ちに筆記用具を置き、解答用紙が回収されるまで待っていなさい。
- (8) 解答上の注意
  - ・ 字数指定のあるものは、句読点〔。、〕および「」や（）なども一字と数えること。なお、一マスには一字しか入れられません。
  - ・ 文末表現は、「こと」、「から」など、問いにふさわしい形にし、文の終わりには句点〔。〕をつけなさい。

受験 番号		氏 名	
----------	--	--------	--

一

次の——のカタカナを漢字に改めなさい。

- ① 組織のチヨウテンに立つ。
- ② 言葉のアヤマリをただす。
- ③ 水たまりがジヨウハツする。
- ④ テッコウ石を輸入する。
- ⑤ 転んで足をコツセツする。

二

次の①～⑤の——のカタカナを漢字に改めたとき、同じ漢字を——で用いるものを、ア～オからそれぞれ選び、記号で答えなさい。

- ① 病気がカイ方に向かう。
  - ア 軽カイな足取りで家に帰る。
  - イ 部屋のカイ修工事を行う。
  - ウ カイ岸を散歩する。
  - エ カイ段を降りる。
  - オ 壊れた機カイを直す。

- ② 危ケンなことをしてはいけない。
  - ア ケン利を主張する。
  - イ 日本国ケン法について学ぶ。
  - ウ かばんの中身をケン査する。
  - エ 新しく橋をケン設する。
  - オ 人生とは冒ケンである。

③ エイ生面の管理は重要である。

ア 新作エイ画を観に行く。

イ エイ業時間が終了する。

ウ 夏には水エイの授業がある。

エ 新しい人工エイ星を打ち上げる。

オ エイ久不変なことなど存在しない。

④ 失敗はセイ功のもとである。

ア セイ意をこめて謝罪する。

イ 本日の天気はセイ天である。

ウ セイ治に興味をもつ。

エ セイ火が会場に到着する。

オ 光合セイを行う植物。

⑤ 議論のソウ点を明確にする。

ア 非常食をソウ庫にしまっておく。

イ 車ソウから景色をながめる。

ウ 市場で競ソウが起こる。

エ 飛行機のソウ縦を習う。

オ 将来の自分をソウ像する。

### 三

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

かじられるヒーロー

人間だったアンパンマンは、一九七三年に絵本となったときに、顔全体があんパンといういまの姿になる。

当初のアンパンマンはいまより胴体が長く、マントには継ぎがあたっていた。継ぎがある点について、やなせは『アンパンマンの遺書』で「正義のためにたたかう人はたぶん貧しくて新しいマントは買えないと思ったから」と述べている。アンパンマンは、派手な装いで人 X を引くヒーローとは異なる、あくまで小文字のヒーローなのだ。

ここで注目すべき点は、飢えている人にも顔差しだし、その顔をかじつてもらうということだ。最初にアンパンマンをかじるのは、砂漠でお腹を空かせた男の旅人で、旅人はアンパンマンが差しだした顔をかじり、元気を取り戻す。かじられて顔のほぼ半分がなくなったアンパンマンは、次に森で迷子になり、お腹を空かして泣いている子どもをみつけ、背中に載せて家に送る途中、その子どもに顔をかじらせて、ついに顔全体がなくなってしまふ。その後、雨にあい弱ったアンパンマンは、パン工場の煙突に墜落し、のちにジャムおじさんとなるパン作りのおじさんに顔を作り直してもらふ。

絵本には、しっかりとかじられた、アンパンマンの顔が描かれている。顔を差しだしてかじつてもらっているため、かじられた部分は、歯型のあとがつき、生々しく不規則でぎざぎざだ。かじる行為をうながされた相手も、最初はためらいを見せる。砂漠で飢えた旅人は「そんなおそろしいことはできません」と断るし、背中に乗った子どもも「かおがなくてもだいじょうぶなの」と心配する。

作者のやなせは『アンパンマンの遺書』で「この最初の絵本で、ぼくが描きたかったのは、顔を食わせて、顔がなくなってしまったアンパンマンが空を飛ぶところだ」と述べている。自分を犠牲にして相手を助ける姿を描きたかったのである。自分を相手に食べてもらふ、これほどわかりやすい自己犠牲もない。しかし、助けられる人びとは弱い立場の善良な人たちだから、このようなあきらかな自己犠牲にためらいを感じる。作者はそうした反応もしっかり書き込んでいる。

こうして顔をなくしたアンパンマンはエネルギーを失って弱ってくる。やなせはさきほど引用した文章につづけて、「顔がなくなっ

てしまったアンパンマンは、エネルギーを失って失速する。この部分が描きたかったのだ」とも述べている。エネルギーを失い弱ったアンパンマンは、アンパンマンの行為がまさに自己犠牲であったことをしめしている。

すでに、一九七三年に「キンダーおはなしえほん」としてはじめて刊行された『あんぱんまん』のあとがき「あんぱんまんについて」には、「ほんとうの正義というものは、けっしてかっこうのいいものではないし、そして、そのためにかならず自分も深く傷つくものです。そしてそういう捨身、献身の心なくして正義は行なえません」と記されている。そこに込められているのは、未来の大人に向けて語った『わたしが正義について語るなら』で「傷つくことなしには正義は行えない」という、やなせの重いメッセージである。

アンパンマンが**かじら、い、い、い**の姿は、絵本とほぼ同時に刊行された『アリスのさくらんぼ』のメルヘン「飛べ！アンパンマン」でも、またアニメ化以前にやなせが原作だけでなく作画もおこなっている一連のアンパンマン絵本でも、たびたび描かれている。

Y

主題が敵役との戦いになっているからだ。

ところで、作曲家いずみたくの提案で音楽をいずみが担当してミュージカルになったアンパンマンについて、NHKの教育テレビの番組『知るを楽しむ 人生の歩き方』で、やなせは「子どもたちにはちばんウケたのは、このアンパンマンが頭をかじらせるところでしたね」と、語っている。当時アンパンマンの絵本の表と裏の見開き頁には、さまざまな形にかじられたアンパンマンの姿が描かれており、一九八〇年に出たマンガ絵本『アンパンマン』には、だんだんかじられて最後になくなってしまいうアンパンマンの九つの顔が順に紹介されている。

**A**、幼稚園の先生や評論家から残酷だとクレームがついたのも、この場面だった。その後のアニメ化では、「頭をかじらせるのではなく、頭の部分をアンパンマンが自分でちぎって「食べなさい」と渡す」ようになっていく。**B**、ちぎられたあとの生々

しいぎざぎざも徐々になくなり、かなりすっきりとした円形に描かれるようになる。

強者が弱者に差し込

アンパンマンがかじられるというのはどういうことなのか。

前章にも登場した、童話に造詣が深く、童話を治療に利用している精神科医の太平健は、『食の精神病理』で、童話の世界を手がかりに、飲食をめぐる関係をふたつに分けている。ひとつは「食う／食われる」という攻撃的關係、もうひとつは「食べさせる／食べさせてもらう」という交流的關係である。

**C**、有名な「赤ずきん」。おばあさんに食事を届ける赤ずきんをオオカミが食べようと思い、まず先回りして赤ずきんになりすましておばあさん宅に侵入しておばあさんをバクリ、ついでやってきた赤ずきんもバクリ、しかしその後、満腹になって寝たところを猟師に見つかり、その猟師がふたりをお腹から救いだし、代わりに石をつめると、そうとは知らないオオカミ、目を覚まし、井戸に行つて水を飲むうとして石の重さで井戸に落ちて死んでしまう。

この童話について、太平は「食う／食われる」の攻撃的な關係は、「食べさせる／食べさせてもらう」という交流の關係に勝てないというお話だと説明する。というのも、「食べさせる／食べさせられる」關係の基盤には、あたえる者からあたえられる者への愛情があるからだ。その証拠に「食べ物を贈る」という意味の「饋」は「愛」という字の原義である」と太平は補足する。**a**にしかたてないオオカミは、**b**に嫉妬し、**c**を装いながら、結果として**d**になることはできず、死を迎えざるをえないというのだ。太平は、これに似た構図が多くの童話に見出せるという。

では、この構図をアンパンマンに適用したらどうなるだろうか。

通常のヒーローものは「食う／食われる」關係であることが多い。より強者であるヒーローが悪い敵をやっつけるといふ構図だ。弱肉強食の論理である。しかし、アンパンマンではこの構図が一見すると逆転している。強者であるアンパンマンが弱者である人物に食べられるのだから。ただし、ここで重要な点は、アンパンマンがみずからすすんで自分の顔を食べてもらおうと差し込

自己犠牲なのだが、そこには相手へのいたわりと愛情がこもっている。

こうして「食う／食われる」という弱肉強食の攻撃的な論理はじつにあっさりとは無効にされ、それがそのまま「食べさせる／食べさせてもらう」という交流の論理に転換される。多くの童話が複数の人物のやりとりをとおして表現する食の交流による攻撃の無効化を、アンパンマンは瞬時にして実現しているのだ。しかも、「交流の究極の形態」と大平が定義する、自分を食べさせる「一体化」によって。

やなせは、アンパンマンがなぜ幼児にウケたのかわからないと、これまでも引用した数多くの著作で何度も述べているが、その理由のひとつは、食の攻撃に対する交流の優位を、たったひとつのかじられる場面としてきわめて鮮明に描いているからではないだろうか。

だから、敵役のばいきんまんと戦っても、アンパンマンは懲らしめるだけで、再起不能なまでに痛めつけたり、殺したりはしない。たしかに、アンパンマンとばいきんまんは善と悪との関係だが、光と影の関係でもある。一方がいなければ他方はいないという、いわばもちつもたれつの関係にある。ばいきんまんという闇の存在があるからこそ、アンパンマンは輝くことができるのだ。

たとえば、アンパンマンには、ウルトラマンのスペシウム光線のような、多くの子ども向けヒーローがもっている必殺技がない。アンパンマンの技、アンパンチは相手を倒すための技ではなく、あくまで懲らしめるための技である。だから、アンパンマンはガッチャマンのように変身もしないし、武器ももっていない。懲らしめるには、アンパンチだけで十分なのだ。

そう、アンパンマンの世界とは、ヒーローものでありながら、日本のほかの多くの子ども向け番組やディズニーのアニメで描かれるような善と悪との完全な二項対立の世界ではない。アンパンマンワールドは勸善懲惡であつても、善者完勝・悪者滅亡の世界とはならないのである。

アンパンマンとばいきんまんは善悪の対立というより、理性ある者といたずら者、素直な人とひねくれ者の関係に近い。大人と子どもの類推と読みかえてもいいかもしれない。ただ、いたずら心は、子どもだけでなく、人間にはだれにでもあるので、それをちよつと懲らしめるのがアンパンマンなのだ。

現代の微生物学では人間に害をもたらす細菌は意外と少なく、乳酸菌のような人間に役立つ善玉菌のほうが圧倒的に多いことがわかっていて。この事実をふまえ、分子生物学者の福岡伸一（一九五九―）は、大腸でコロニーを作る多くの細菌が飲食物を人間が消化できる栄養素に分解することで人間の消化活動になつており、細菌との共存こそが、人間の生命維持に必要であると述べている。そもそも、アンパンマンのもとであるパンを作るにはイースト菌が欠かせない。この点について、やなせは『もうひとつのアンパンマン物語』で、次のように説明している。

バイキンは食品の敵です。しかし実はパンを作るのもイースト菌なんです。

戦いながらアンパンマンとバイキンマンは共存しています。

ボクらの心には善と悪があります。

善と悪は戦いながら共存しています。

そのことをボクはストーリーの中に入れたかったです。

現代的な生物学の視点にたてば、「バイキンマン」は人体に有害な一般の菌だけでなく、人に有益な菌を代表していると考えていいだろう。だからこそ、アンパンマンは「バイキンマン」を抹殺せず、共存の道を探るのだ。

（福田育弘『ともに食へるということ』教育評論社より）

※ 作問の都合上、本文中の注番号と章番号を省略しました。

注1 継ぎ……衣服の破れに小布をあててつくりうこと。そのため的小布。

注2 やなせ……やなせたかし。日本の漫画家・絵本作家。

注3 造詣……特定の分野についての広い知識や理解。

注4 原義……もともとの意味。

注5 ウルトランマン……特撮テレビドラマなどに登場する巨大変身ヒーローの名称。

注6 ガッチャマン……『科学忍者隊ガッチャマン』というヒーローアニメの登場人物。

注7 勸善懲惡……善い行いを勧め、悪をこらしめること。

注8 類推……類似の点をもとにして、他を推し測ること。

注9 コロニー……微生物が数を増やし、かたまりとなったもの。

注10 イースト菌……酵母と呼ばれる微生物。

注11 エセー……自由な形式で意見や感想などを述べた文章。

問1  X に入る体の一部を表す言葉を漢字一字で答えなさい。

問2 —— ①とありますが、アンパンマンに助けられる人々が、断ったり心配したりしたのはなぜだと筆者は考えていますか。「自己犠牲」という言葉を用いて六十字以内で答えなさい。

問3  Y には次のア～エの文を並べかえたものが入ります。ア～エの意味が通るように並べかえて、記号で答えなさい。

ア つまり、まだ三分の一の作品でアンパンマンはすっかりかじられているのだ。

イ ストーリーの内容を考えると、ばいきんまんと戦う物語では、アンパンマンはかじられていない。

ウ さらに、一九八七年から一九八八年一〇月のアニメ化をはさんで、一九八九年までに十五冊刊行された「アンパンマンのぼうけん」では、アンパンマンは四作品でかじられ、一作品がかじられて帰ってくる姿からはじまっている。

エ たとえば、一九八三年から八四年にかけて刊行された二十五冊の「アンパンマン・ミニブックス」では、アンパンマンは六作品で弱った人にかじられており、さらに丸呑みされる作品が三、みずから一部を差しだす作品が一で、全体の四割の作品でアンパンマンは食べられている。

問4  A～Cに入る言葉をそれぞれ次の中から選び、記号で答えなさい。

ア しかも イ なぜなら ウ それとも エ しかし オ もし カ では キ たとえば

問5  a～dに入る言葉の組み合わせとして最もふさわしいものを次のア～カから選び、記号で答えなさい。

ア a…対等な関係 b…愛情のある関係 c…対立関係 d…対立関係

イ a…対等な関係 b…友好的な関係 c…主従関係 d…対立関係

ウ a…攻撃的關係 b…とげとげしい関係 c…信頼関係 d…信頼関係

エ a…攻撃的關係 b…愛情のある関係 c…交流関係 d…交流関係

オ a…支配的關係 b…友好的な関係 c…主従関係 d…三角関係

カ a…支配的關係 b…とげとげしい関係 c…信頼関係 d…三角関係

問6 ——②とありますが、「食の交流による攻撃の無効化」は、アンパンマンのどのような行動によって「実現している」と考えられますか。解答らんの書き出しに続く形で、五十字以内で答えなさい。

問7 ——③とありますが、「アンパンマンには」「必殺技がない」のはなぜだと考えられますか。理由として最もふさわしいものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア アンパンマンは、敵役ともちつもたれつとの関係にあり、相手を懲らしめるふりをするだけで十分だから。
- イ アンパンマンは、行いの善悪を判断することがなく、誰に対しても平等に交流する珍しいヒーローだから。
- ウ アンパンマンは、敵役の攻撃を無効化することができ、変身したり相手を懲らしめたりする必要がないから。
- エ アンパンマンは、アンパンチによって敵役を倒すのではなく、敵役を助けることを重要視しているから。
- オ アンパンマンは、敵役を倒すことを目的としておらず、敵役を懲らしめられる程度の技があれば良いから。

問8 次のア～オのうち、本文の内容にあてはまるものには○を、あてはまらないものには×をつけなさい。

- ア 一九七三年発売の絵本に描かれたアンパンマンの顔は、かじられた部分がすっきりとした円形になっていた。
- イ 『アンパンマン』の作者のやなせたかしは、捨身や献身の心を持たない状態では正義を行えないと考えている。
- ウ 精神科医の太平健は、童話の世界では「食べさせる／食べさせてもらう」関係よりも「食う／食われる」関係が圧倒的に優位だと説明している。
- エ 『アンパンマン』の作者のやなせたかしは、アンパンマンが幼児に面白がられた理由は、子どもに親しみやすいヒーローだったからだだと分析している。
- オ アンパンマンの世界は、善悪の対立を描いたものではなく、善と悪は戦いながらも共存するという世界として描かれている。

四

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

「だいぶ良くなりましたから、これからは、三、四日に一回くらいの間隔でいいでしょう」

林太郎は晒を巻き終わって言った。

「ありがとうございます」

半身があらわになっていた恭介は腕を袖に通し、木綿の粗末な着物を整えてから、丁寧にお辞儀をした。

林太郎は恭介が衣服を身につける仕種を見るときもなしに眺めていた。そして初めて、この男の端正な顔つきに気がついた。顔こそ日焼けして黒かったが、眉は長く伸び、鼻梁は高く、唇は引き締まっていた。清潔な印象で、眼差しも柔和だった。林太郎はだんだんとこの男に親しみが湧くのを感じていた。

「河井さんは、今おいくつですか」

林太郎はそんなふうに着をきいてみた。

「二十五歳になりました」

なつたばかりです、と恭介は付け加えた。

柔らかく落ち着いた語調には、地方独特のなまりが感じられた。

その穏やかな対応に、林太郎はあの火事の日的一件を切り出してみる気になった。

「火事に遭ったヤエさんを助けたのは、あなたですね」

林太郎はごく普通の調子で問いかけた。

すると、恭介の目に緊張が走った。が、それも一瞬の出来事で、すぐに元の柔らかい眼差しに戻った。

「そうです。わたしです」

と恭介はうなずくと、

「ヤエさんはお元気かご存じですか」

とたずねてきた。

林太郎はヤエを気にかけている恭介にさらに **A** を抱いた。

「わたしの父が往診で診ています。多少火傷されましたが、大丈夫。お元気です」

「そうですか。安心しました」

恭介は初めて笑みを浮かべた。

そこで思いきって林太郎は一番の疑問を投げかけてみた。

「ところで、あなたはヤエさんを救ったのに、なぜ名乗り出ないのですか」

「それは……」

そう言って、一度言い淀んだが、観念したかのように恭介は話し始めた。

恭介の話は、幼少時から始まった。郷里は新潟だという。父親は人夫で、港に船が着くと重い荷物を担ぎ日銭を稼いでいたが、それでも仕事にありつける日はまだいいほうだった。母親はいつも不機嫌で、大勢の子どもたちを叱りつけている姿しか記憶にないという。六歳になると、港湾作業者の伝手で東京の炭間屋に奉公に出された。それが千住の日光街道沿いにある店だった。

奉公先で、たった六歳の子どもにどれほどの仕事ができたといいのだろう。その後の恭介の苦労は言を俟たない。しかし、時々使いにい出されると、いつしか途中の神社が、恭介にとってのただ一つの安らぎの場となった。

恭介はそこでヤエと出会う。五十歳のヤエは信心深く、毎日、この神社に参るのを日課としていた。恭介と言葉を交わすようになるまでには、時間はさほどかからなかった。

恭介の着物も帯も、炭で真っ黒だった。袖はほころび、襟は穴だらけである。誰が見てもみすばらしい身なりだった。境内の隅で所在なげに佇む恭介に、ヤエは同情とも愛情ともつかぬ感情を抱いたようだ。

**B** の上にも **C** 年というよ



「C年？」

恭介は炭で汚れた黒い顔の中の、目だけを異様に光らせてきいた。

「そう。冷たいBでもC年座っていれば温まる。辛抱していれば、いつかは道がひらける喩えだよ」

ヤエの教えに恭介は黙ってうなずいた。

それから、ヤエは、

「今は辛抱だよ、お天道様が見ているよ」

といつも、わが子のように恭介を励ました。

恭介は恭介で、ヤエの期待に応えようと、

「おら、いつか自分の店を持つんだ」

といつも夢を語った。

恭介がヤエと出会って一年ほどが経った頃だった。

「おら、番頭さんから初めて褒められた」

どうれしように話した。

「土間の掃除が上手になったといわれたんだ」

「それは何よりだ。これからも辛抱だ。頑張るんだよ」

ヤエは恭介の頭を撫でてから手を握った。炭で汚れ、ひび割れた小さな冷たい手を握っているうちに、思わず涙が流れてきた。

そのときから、恭介は番頭から褒められた話をヤエに報告する日々が始まった。もちろん、そんな話がそうそうある訳はないが、褒めてもらいたい一心だった。喜んでもらいたい気持ちもふくらんでいた。そのうち話は大きくなる。そうして五、六年も経っただろうか。恭介は、ついに番頭に気に入られて出世し、仕入れを任されたと報告した。ヤエは疑う様子もなく、恭介を褒め続けた。だが間もなく、恭介は神社にあらわれなくなった。

「出世話は嘘です。わたしもいつまでも子どもではありませんから、ありもしない話でヤエさんを騙すのは気が引けました。信じて喜ぶヤエさんを見ると、申し訳なくて会えませんでした」

そして、とうとう日々の辛さにも我慢できず、炭間屋を飛び出した。その後、縁あって今の浅草の金物屋に拾われ、千住南に隠れるように住んで十年が過ぎようとしている。

「だから、ヤエさんの前には私は顔を出せないので。ずっと騙してきた上、我慢できずに奉公先を逃げ出してしまったのですから」  
ややあって、恭介は、

「ありがとうございます」

と、深々と頭を下げると帰っていった。

恭介の後ろ姿を見送りながら、林太郎はしばらく立てなかつた。

林太郎はあとの診察を山本に任せ、そのまま自室に向かった。恭介の話の途中から、彼の顔を見られなくなっていた。

——なんとばかな！

と怒りに似た感情が湧き起こっていたのだ。

その感情は恭介に対してか、世の中に対してか、それとも自分自身に向けてのものなのか。自分の口から出た言葉に、林太郎自身が驚いていた。

恭介と歳は離れていたが、同じ二十代である。恭介が六歳で家を出た日、自分は故郷、津和野で野山を駆け回り、蝶を追いかけていたのか。恭介が重い炭俵を運べずに罵倒された日に、仲間を相手にふざけて笑い転げていたのか。一日の帳尻が合わず疑いをかけられ、血がにじむまで叩かれていたとき、家族で温かい夕餉を囲んでいたのか。

林太郎は、思いのやり場を見つけれずいた。この日は夕食も半ば残し、早々に自室に籠もった。

翌朝、外出着で身を整えた林太郎は、父の前に正座して頭を下げた。

「今日は午前中だけ、時間をいただきたく思います」

静男は理由をきかず、承諾した。

昨夜、夕食を上ので口にしていた林太郎を心配して、母峰子が様子を見にいらしたとき、

「いや、行かなくてよい」

と静男は制していた。林太郎と恭介が診察室で話し込んでいたことをきいた静男は、林太郎の様子をしばらく静観することにしたのだ。

林太郎は朝食を終えて、そのまま家を出ると、ヤエのところへ向かった。ヤエの命の恩人は、恭介だと教えるのはたやすい。しかしその前に、林太郎にはヤエについて、一つ明らかにしたい疑問があった。それは、散歩好きの山本が拾ってきた話である。

ヤエは火事の直後、命の恩人にお礼を述べたい、何とか探してほしいと、しきりに息子に訴えていたが、急に、もう探さなくてくれと言いだしたというのだ。林太郎は

D

に、ヤエに疑問を投げかけた。

「ヤエさんは助けてくれた人を、もう探さなくていいと思つておききました」

「はい。名乗り出たくない事情があるのでしょうかから、そつとおこうと……」

「でも、あなたの命の恩人ですよ。知りたいとは思いませんか」

林太郎は、自分が詰問するような口調になつていてるのを感じ、あわてて口を閉じた。

ヤエは少し思案してから続けた。

「わたしは恩人が誰なのか分かつたのです」

「えっ？」

林太郎は耳を疑った。

「真つ赤な火の中から、ヤエさん、ヤエさんと呼ぶ声がきこえました。そのときは動転してて分かりませんでした。でものちになつて、あの声の主を思い出しました。大人の声になつてはいましたが、越後なまりではヤイときこえるのです。あの声は……」

そこでヤエは口ごもつた。

「恭介さんと分かつたのですね」

「えっ、先生は恭介をご存じですか」

今度はヤエのほうに驚いてたずねた。

「わたしは恭介さんの火傷の手当てをしました。昨日、名乗り出られぬ理由もききました」

と林太郎は言った。

それからヤエは、恭介との出会いを語つたあと、

「恭介の手柄話も自慢話も、全部作りごとと知りながら、褒めてやりました。子どもの嘘など、すぐに分かるものです。でも、わたしは間違つていました。恭介の喜ぶ顔を見ると、嘘をたしなめることができず、とうとう大きな嘘をつかせることになつてしまったのです。わたしこそ恭介の前に出られません」

「そうでしたか……」

林太郎は突然の訪問を詫びて、ヤエの家を辞した。

双方の事情を知つた林太郎は、診察中も散歩中も、片時も恭介とヤエのことが脳裏を離れなかった。読書にさえ身が入らなかつた。二人を引き合わせようとしたところで、出てくる訳はない。③ それぞれの思いを知らせる方法はないものか……。

何日が経つただろう。ついに林太郎は、父に打開策を相談することにした。庭に下りて花の終わった萩の手入れをしている父に、妙案を授けてほしいと胸の内を語つた。

静男は黙つて縁側に腰をおろした。林太郎は父の答えを待った。が、それは意外なものだった。

「よそ様の生き方をどうしようというのは、思い上がりだ」

思わず林太郎は父の顔を見た。

しかし、厳しい言葉とはうらはらに、そこには父の温かい眼差しがあった。

そのとき、秋風に変わって、今年初めての木枯らしが庭を吹き抜けたことに林太郎は気づかなかつた。  
そして数年後、<sup>④</sup>恭介が幼い頃神社で語っていた夢を実現し、ヤエに会いにいったことも知らない。

(山崎光夫『鷗外青春診療録控—本郷の空』中央公論新社より)

※ 作問の都合上、本文中の章番号を省略しました。

注1 晒……漂白した布。ここでは、医療用で使用している布のこと。

注2 鼻梁……鼻すじ。

注3 人夫……雑用の力仕事をする労働者。

注4 炭問屋……生産者から炭を買い入れて小売商におろす業者。

注5 奉公……主人に仕えること。他人に召し使われて勤めること。

注6 言を俟たない……言うまでもない。

注7 所在なげに……することがなく退屈な様子で。

注8 番頭……店の万事をとりしきっている者。

注9 夕餉……夕方の食事。夕飯。

注10 詰問……相手を買めながら返事を迫って問い立てること。

問1  A に入る言葉として最もふさわしいものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 緊張感    イ 清潔感    ウ 罪悪感    エ 親近感    オ 優越感

問2  B・Cに入る漢字一字をそれぞれ答えなさい。

問3 ①とありますが、「林太郎」が「恭介」の「顔を見られなくなっていった」のはなぜだと考えられますか。その理由として最もふさわしいものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア どこにも行き場のない怒りに似た様々な感情が湧き起こってきたから。

イ 言い訳ばかりをする恭介に対して、同年代の若者として憤りを感じたから。

ウ 自分とは境遇の異なる人の話を延々と聞くことに飽きてしまったから。

エ 問題の解決策を考えられない自分のふがいなさに嫌気がさしたから。

オ 恭介よりも自分自身の生き方が恵まれていることを喜ばしく思ったから。

問4 ②の「疑問」とは何ですか。「〜という疑問。」につながる形で、四十五字以内で答えなさい。

問5  D に入る言葉を次の  の中から選び、カタカナを漢字に直して答えなさい。

イクドウオン ・ イッシンイッタイ ・ ジュウジザイ ・ タントウチヨクニユウ ・ トクイマンメン

問6 — ③とありますが、「ヤエ」と「恭介」の「それぞれの思い」について、次の【ノート】にまとめました。【ノート】中のXを、「嘘」と「辛抱」という言葉を用いて、七十字以内で答えなさい。

【ノート】

〈ヤエと恭介それぞれの思い〉

「ヤエ」

恭介の話が作りごとと知っていたいながらたしなめることができません、大きな嘘をつかせることになってしまい、申し訳なく思っている。

⇔

「恭介」

X

申し訳なく思っている。

問7 — ④とはどのような「夢」ですか。「くこと。」につながる形で、本文中から十字でぬき出して答えなさい。

問8 本文中の登場人物に関する説明として最もふさわしいものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 林太郎は、問題が起きると自分で解決しなければ気が済まず、周囲の気持ちを考えずに事を進める自分勝手な人物である。
- イ 林太郎は、話を聞くことが上手で相手の気持ちを引き出せるが、自分の気持ちの表現が苦手で周囲に心配されている人物である。
- ウ 静男は、口数が少なく、口にする言葉が厳しいものの、息子を見守る温かな眼差しを持っている人物である。
- エ ヤエは、恭介のみすぼらしい姿に心を動かされて、自分が親として養おうとするほど善良で信心深い人物である。
- オ 恭介は、穏やかな性格で口調も落ち着いているが、どの奉公先も数年で辞めてしまう忍耐力のない人物である。

問9 本文中の「林太郎」は、明治・大正期に活躍した小説家・森鷗外をモデルにした人物であるが、森鷗外の作品を次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 『坊っちゃん』
- イ 『蜘蛛の糸』
- ウ 『高瀬舟』
- エ 『銀河鉄道の夜』
- オ 『たけくらべ』